



つばさだより

No.281

2018年4月



つばさ薬局 多賀城店	☎022(366)8001	吉川店	☎0229(22)7010
長町店	☎022(308)5711	泉店	☎022(772)1571
船岡店	☎0224(58)1065	若林店	☎022(289)8777
中新田店	☎0229(64)1888	松陽台店	☎022(361)9444
松島店	☎022(353)2990	上杉店	☎022(212)1126
玉川店	☎022(365)2838		



かかりつけ薬剤師制度について

ようやく春めいた時期になってきておりますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？季節の変わり目で風邪

をひいたという方もいるかもしれません。

みなさんは身近にかかることのできるかかりつけのお医者さんはいますか？いつも同じお医者さんに診てもらうのは安心しますよね。

では、お薬の方はどうでしょうか？いつでも気軽に相談できるかかりつけの薬局はありますか？

薬局にもそれぞれの特色があり、大小さまざまな規模の薬局があります。薬剤師数が多い薬局では、薬をもらうたびに違う薬剤師が説明するというのが日常です。服薬説明の場での記録は各薬剤師が責任を持って残していますが、薬を受け取る側にとってみれば、できるだけ毎回同じ薬剤師から説明を受けたいと思う方もいるのではないのでしょうか？

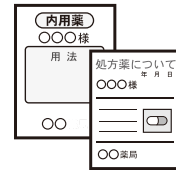
今回は、そのような方への期待に応える「かかりつけ薬剤師制度」についてのご紹介です。



立地場所による薬局の特色

薬局の立地場所は様々です。病院の目の前にあるもの、昔ながら街の中にあるいは住宅街にあるもの。

病院の目の前にあれば、処方せんを受け取って、すぐにご利用できます。特に総合病院前の薬局では在庫の備蓄数も多いので対応もスムーズです（患者数が多く待ち時間が長いなどは別として）。また、自宅近くにあるとか、病院からの帰宅途中にある薬局などでは、事前にFAXを送れば、スムーズに受け取りができます。ただし、備蓄薬剤が多くない場合もあり、取り寄せが必要になることもあります。



かかりつけの薬局をもつ意味

「薬局なんてどこも同じもの」と思われるかもしれませんが、複数の医療機関を受診している方にとっては、あちこちの薬局で受け取るよりも、なるべく1か所の薬局に処方せんを出していただくほうが、安全に服用を継続できます。複数の薬局を利用しているけども、薬の手帳を見せればいいのか？と思う方もいるでしょう。

確かに薬手帳は有用です。ただ、受診したタイミングで生じる残薬などは手帳だけでは判断しにくい部分もあります。また体に合わなかった薬の記録などは、手帳に余程マメに記載していないと、各薬局での判断・対応が難しくなります。

薬局を1か所に決めてご利用することで、これまでお渡しした薬の内容がすべて薬局内に記録されているため、経時的に確認ができ、飲み合わせや重複した薬剤が処方となっていないか、余った薬の調整、副作用歴の有無など、十分な情報をもとにお渡しが可能となります。



ぜひ、かかりつけ薬剤師制度のご利用を

かかりつけ薬剤師として患者様へ対応するには、一定の実務経験と研修センターの認定が求められます。また地域活動に参画している実績なども条件として求められます。

近年、医療は専門ごとに分化され、専門に特化した医師が数多くおり、薬物治療も複雑化しています。

また、社会保障費の削減や病院の病床数の減少などに伴い、複雑な治療も入院ではなく外来で行われるケースも多くなっています。

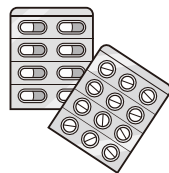
そうした中、薬剤師にも一層の専門性が求められ、各種学会が認定した資格を有する専門薬剤師も少しずつ誕生し、患者様の薬物療法をサポートしています。

(専門薬剤師の例)

外来がん薬物療法専門、漢方薬専門、緩和医療薬物療法専門、小児薬物療法専門、在宅薬物療法専門 等

患者さまには、薬のこと、保管や管理、飲み忘れを減らすにはどうしたらいいか、様々な面で薬剤師にもっともっと相談してほしいと思います。

いつでも同じ薬剤師に相談に乗ってもらいたいと、ご希望のある方はぜひ利用される薬局で「かかりつけ薬剤師制度」についてご相談下さい。



ご存知ですか？ポリファーマシー

最近、週刊誌などでも見かけるようになった言葉ですが、みなさんご存知でしょうか？

薬を複数併用している、いわゆる「多剤併用」を意味しています。

「こんな薬は飲んではいけない」とか「何種類以上の薬の併用は危険」というような記事も見かけたこともあるのではないのでしょうか？

薬には主作用以外に、効き目に反した副作用というものがあります。複数の薬を併用することで、ふらつきなどが増えてしまうことがあります。治療上、複数の薬を併用しなければならない病気もあります。薬の種類や、患者様の状態にもよりますが、中止できる薬があるかもしれません。

例えば、睡眠薬など、なるべく飲まないで過ごしたいなどお考えの方も少なくないのではないのでしょうか？もちろん、自己判断での安易な休薬はお勧めしませんし、かえって有害です。

「薬を減らせないかな、減量できないかな」そういう場面でもかかりつけ薬剤師がいて相談することで医師との間の橋渡しとなり、患者様の考えに沿った治療につながると思います。

ぜひ、この機会に「かかりつけ薬剤師」をもってみてはいかがでしょうか？



参考・引用文献：いつでも元気2018年2月

5月の栄養相談予定 (各店10:00～12:00開催です)

- ・ 2日 (水) 中新田店
- ・ 8日 (火) 泉店
- ・ 11日 (金) 松陽台店
- ・ 14日 (月) 上杉店
- ・ 17日 (木) 船岡店
- ・ 22日 (火) 古川店
- ・ 25日 (金) 松島店
- ・ 30日 (水) 若林店